

2022年(令和4年)5月23日(月)

和歌山



紀伊・房総 くろしお物語

◆23◆

房総半島太東岬に由緒ある飯縄寺(千葉県いすみ市岬町)がある。源義経が奥羽に向かう途中、飯縄寺に立ち寄ったという故事になら

飯縄寺の山門前に立つと立派な仁王像に迎えられ、村田浩田住職にどこか古刹の雰

つて、安房国(千葉県鴨川市)の彫り師・伊八が欄間に彫った傑作があるという。

飯縄寺の山門前に立つと立派な仁王像に迎えられ、村田浩田住職にどこか古刹の雰

囲気のある本堂に導かれた。住職は誇らしげに向拝に「竜」欄間に

波に飛竜の彫刻を見せて下さった。見学の後、伊八はなぜ「波」

にたたき付けられたと見せて下さった。そこで岸壁にぶつかる怒涛を観察でき

る足場を見つけた。危険を感じながら体感したことをひと彫りひと

彫り形にした。

彼は1751(宝暦元年、安房国長狭郡下打墨村(現在の鴨川市打隅)で代々名主を務めた武志家の5代目

エネルギーを集めて高い波を作り、何回かの回転運動のあとエネ

ルギーの分散が始ま

り、本堂の欄間に「波に宝珠」を観た。ライトで照らし出された

「波」は生きものよ

り、そこをひと彫りひと彫り形にした。

エネルギーを集めて高い波を作り、何回かの回転運動のあとエネ

ルギーの分散が始ま

り、本堂の欄間に「波に宝珠」を観た。ライトで照らし出された

「波」は生きものよ

紀伊・房総

黒潮をアートにした彫り師・伊八

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

白波の小宇宙 欄間に

として生まれたとされる。武志伊八郎信由。彼は手が器用なので10歳から彫刻を始め、躍動感と立体感溢れる「横波」を彫って作風を確立した。

ここからは私の推測である。10歳の少年は毎日鴨川の海岸に出で、岸壁にぶつかる荒波を見ているうちに肌で感じなくなつて、波に飛び込んだ。今のサーファーはサーフボ

りを確立した。その結果「覗き画法」を編み出し、葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」の作品やゴッホ、セザンヌ、ピカソの作品にも影響を与えたといわれている。もし、伊八に

の民家にも、採光や通風・換気の必要から欄間の透かし彫りの二

ドで波乗りのダイナミックさを体感している

であろうが、伊八は波には牛若丸と天狗」のドンデン返しで砂浜に案内頂いた慈覚大師の開いた古いお寺です。仁王像を安置した山門をくぐ

り、本堂の欄間に「波に宝珠」を観た。ライトで照らし出された「波」は生きもののように見えて圧感だっ

た。隣の棟には葛飾北斎コ一ナ一があり、与謝蕪村の鳥獣戯画のような動物の習作綴りを拝見した。

こんな欄間彫刻が発達したのも江戸の大